

## 研究主題

生徒が自らの命を守る力を育てる安全教育（防災）の推進

川越市立川越第一中学校

### 研究のポイント

- 生徒の命を守るための安全教育(防災)の指導方法や教育手法等の研究を行う。
- 慶應義塾大学准教授・大木聖子氏と連携した校内研修や、様々な想定で行う防災訓練を通し、教職員の防災に関する知識や意識改革を図る。
- 避難所設営を考える授業や災害から自他の命を守ることを想定した訓練を通し、生徒の防災意識を高めると共に人権意識を養う。

## 1 研究の概要

### (1) 研究のねらい

日本は豊かな自然の恩恵を受けながら生活しているが、東日本大震災などの大地震、豪雨や猛暑など、我々はその脅威にさらされながら生活をしている。甚大な被害をもたらす自然災害が多発する昨今、学校教育における防災教育のあり方はその重要度が増している。

そこで、本校は川越市教育委員会の指定を受け川越市立教育センター墨谷悦史指導主事の指導の下、慶應義塾大学准教授・大木聖子氏を招聘し研究を進めた。大木氏による校内研修、避難所設営をテーマとした出前授業を実施した。そして、校内研修で得た知識や考え方をもとに安全教育担当が中心となって今まで行ってきた避難訓練の見直し、様々な想定を意識した防災訓練を実施した。

避難所設営をテーマとした出前授業や見直された防災訓練を行うことにより、災害から自らの命を自分で守るために主体的に判断し行動できる生徒の育成、そして自分だけでなく周囲の人たちに対する思いやりの心を育む生徒の育成をねらいとした。また、有事における教職員の役割、責任はとても重大である。教師の言葉一つで、生死が分かれることも大いにあり得ることである。よって教職員の防災教育に対する意識改革を図ることも大きなねらいとした。

同じ研究を本校校区の仙波小学校でも行っている。小中における良い連携教育としていくこともねらいの一つとしたい。

### (2) 研究主題設定理由

本校では、例年火災や地震を想定した避難訓練の他、竜巻を想定した訓練をしてきているが、自分の命を守るために、主体的に判断し行動できる生徒を育てるために指導方法や教育手法等を研究し、安全教育の一層の推進を図るためこの題目を設定した。

### (3) 校内組織

校長—教頭—教務主任・研究主任・安全教育主任  
安全教育部会  
上記を除く全教職員

## 2 研究の内容

期 日	事 業 内 容	場 所	対 象
4月19日	研究推進委員会（研究計画、研究組織）	校長室	推進委員
4月20日	第1回防災訓練	校庭	全教職員
6月22日	校内研修 講師 慶応義塾大学准教授 大木聖子氏 （防災小説を用いた効果的な避難訓練の研究）	視聴覚室	全教職員 校区小学校教員
7月13日	出前授業（第2学年） 講師 慶応義塾大学准教授 大木聖子氏 （補助：大学生） （避難所設営のための4コマ漫画を用いた授業を行い、生徒が主体的に判断し、行動できるようにする）	体育館	全教職員 第2学年生徒 保護者
9月4日	第2回防災訓練及び防災集会（1学期の校内研修、出前授業を活かして）	体育館	全教職員 全校生徒
1月8日	第3回防災訓練（1学期の校内研修、出前授業を活かして）	校庭	全教職員 全校生徒
2月～3月	本校ホームページ等での研究成果発表		

## 3 実践事例

### (1) 校内研修

日時 平成30年6月22日（金）15:00～16:00

講師 慶應義塾大学准教授 大木 聖子 氏

対象 本校教職員、地域の小学校教員

内容及びねらい

演題「これからの防災教育 ～人を育む・未来をつくる～」

内容「防災小説について」

ねらい ・自校の避難訓練について振り返る。

・効果的な避難訓練について考える。

①大地震による破滅的な状況を知る。

- ②減災・防災できると知る。
- ③地震と向き合う。自分で描いたより良い「防災小説」により、自分にとっての「今」や「周囲」の存在の意味を見出す。
- ④目指すべき自分像がわかる。かけがえのない「今」を生きる。
- ⑤他の人の綴った「防災小説」を聞くことで、想定外に対峙する力がつく。



校内研修の様子



出前授業の様子

## (2) 出前授業

日時 平成30年7月13日(金)

第6校時(14:35~15:25)

於:本校体育館

講師 慶應義塾大学准教授 大木 聖子 氏 (補助:大学生8名)

対象 第2学年 全クラス合同

内容及びねらい

テーマ「避難所設営・運営のための4コマ漫画」

- 内容
- ①避難所設営・運営に係る5班(食料物資班・庶務班・情報班・衛生班・学校再開準備班)を想定し、各クラスに割り振る。
  - ②各班の4コマ目の吹き出しをグループごとに考える。
  - ③各班の数事例を全体で発表。全体で意見を共有する。
  - ④講師の大木先生より講評。

ねらい 正解を求める教材ではない。決断や登場人物のセリフを埋める中で、災害時の場面を自分にも降りかかることとしてリアルにイメージしてもらうことを目的としている。

生徒の感想

- ・いつでも大きな地震に備えておかななくてはいけないなと思いました。また、地震などが起きてしまったときは、落ち着いて命を守り、避難所に行ったときは、自分が率先して動けるようにしたいです。
- ・災害が発生して避難者が増えると、いろいろな問題が増えてその調整も難しくなることが分かった。実際に災害が起こった時は冷静に避難するのはもちろんのこと、避難所での生活も他の避難者と協力して、臨機応変に行動する必要があると思った。

### (3) 防災訓練

日時 平成31年1月8日(火) <今年度第3回>

(帰りの会前の時間：生徒には伝えずに)

想定及びねらい

地震の発生後

- ① 防火扉が閉まり、通常の避難経路が使用できなくなった場合でも安全に避難できるようにする。(教師が誘導する)
- ② 避難困難になった生徒の対応を教員・生徒が連携して行う。
- ③ 2学期までの防災訓練の知識の定着を図る。

生徒の感想

- ・ 前の階段が閉まっていたけど、あわてず指示に従って安全に避難することができた。訓練通りに避難できない状況でも指示に従って、または臨機応変に対応することが必要だとわかった。
- ・ 腰を抜かしてしまった友達のサポートもできたので、良い訓練だったと思います。今回のように、実際の地震が起きたときに考えられるハプニングに対応することが命を守るために重要だと改めて思いました。

## 4 研究の成果と課題

「避難訓練にかかった時間を計測して、『避難にかかった時間が短縮されて、今回の避難訓練は良かったですね。』こんな避難訓練をやっていませんか？こんな避難訓練は時代遅れです。」という大木聖子氏の言葉はとても衝撃的だった。

防災教育の研究を進めていくにつれて、生徒の変容とともに、教師の意識の変容が多く見られた。防災教育を展開していくことは、「未来の災害から自らの命を守るため」という目的以外に、避難所開設・運営を考えていく中で、周囲の方々への思いやり、心配りを考える生徒の増加に繋がったと言える。また、生徒の安全を確認する上で、生徒の所在確認はどうすべきか、そのためには教員はどう動くべきか、自分たちの役割・動きはどうすべきか、防災訓練ごとに教師側の意識も大きく変化した。つまり本校が共に進めている人権教育にも関わり、「思いやりの心を育む」「命の大切さを知る」「自分が人に大切に思われていることを知る」教育、自己有用感を育む教育につながっていると実感できた。

同じ研究を進めている仙波小学校でも、同様な成果が上がっていると思われる。「命を大切にする」という意識を高める生徒を育成していくことで、人権意識も生まれ「心豊かな」生徒の育成にもつながっていく。そうした生徒がいずれ地域に貢献できる存在となっていくことに期待したい。

今回の研究は、校種間連携教育を進める上でもとても価値ある研究になった。今後もこの取組を継続し、将来の地域に貢献できる、また将来の日本を担う、そして世界に羽ばたく生徒たちを育てるために努力していきたいと思う。